

INSIDE THIS ISSUE

1. 1月・3月例会案内、ハイブリッド開催案内
2. 例会要旨等
3. 東京支部短信

2023年(令和5年)**1月例会**

日時：1月21日(土)14時より

特別講演：「ころ」はどのように読まれてきたか

——漱石と比較文学比較文化——

講師：大妻女子大学(名誉教授) 齊藤恵子

司会：日本女子大学(名誉教授) ソートン不破直子

3月例会

日時：3月18日(土)14時より

講師：日本大学(非常勤) 坂東真理子

題目：戦後フランス文学における記憶の断片のモチーフをめぐって

——パトリック・モディアノの小説作品を中心に——

司会：成城大学 三枝大修

※1月・3月例会の開催方法については、
「東京支部短信」をご覧ください。

役員連絡会開催のお知らせ

2023年1月例会前13時よりオンラインにて開催します(役員連絡会の構成員は、支部長、支部事務局長、各種委員会委員長、事務局委員会の委員です。その他委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)。開催方法については「東京支部短信」をご参照ください。

第3回幹事会開催のお知らせ

第3回幹事会

3月例会終了後、幹事会を開催します(幹事会構成員は、幹事、支部長、事務局長、各種委員会委員長です)。開催方法については「東京支部短信」をご参照ください。

1月例会特別講演

「こゝろ」はどのように読まれてきたか ——漱石と比較文学比較文化——

大妻女子大学（名誉教授） 齊藤恵子

夏目漱石の「こゝろ」は、漱石作品中「坊っちゃん」と並んで、現在まで多くの人に読まれています。形式上は、構成が単純ですが、内容は実に多くのテーマを含み、様々に論じ、分析されてきました。例えば、人間のエゴイズムと我執、罪と償い、良心の葛藤、分裂した自我、個人主義の代価・淋しさと孤独、殉死をめぐって等。

研究方法としては、日本文学の伝統に沿った作品論、文学の枠を出て、深層心理学・精神分析的な分析、比較文学比較文化の視点、文明史や社会学の観点、神話・古典・聖書との対比、語りの技法の分析、審美批評、書かれざる部分を読む、などこれも実に多様です。長らく優勢であった、「下」の「先生と遺書」を最重要視した読み方に代わり、「先生と私の物語り」、あるいは遺書の受け手「私」を中心とする読み換えの出現は、目を見張る変化です。こういう読み方の推移は、漱石像研究の変化、変容と呼応しており、「こゝろ」の受容史は、実に興味深い研究題材です。

2021年に上梓した『漱石論集 こゝろのゆくえ』（齊藤恵子）の基軸は、「こゝろ」を中心とした私の漱石論です。「こゝろ」論の構築に大きな役割を果たした、分身物語としての解釈、書かれざる余白の読み、聖書との対比で見えてきたもの、の三点を手懸かりに、読み方の一例として、私の作品論の一端を具体的に説明します。

1908年、漱石は秘かに期するところのあった作品が理解されない苛立ちから、もう漱石論は沢山だ、百年後に第二の漱石が出て第一の漱石を評して欲しい、と『中央公論』編集者滝田樗陰に書きました。我が作品は百年生き延び、その時こそ正当な評価を受けるとの自負を心中深く蔵していたのでしょう。比較文学比較文化は、研究方法として、強みと共に、内在する弱点を克服して、漱石の苛立ちを鎮めるのに大きな役割を果たしました。

3月例会発表要旨

戦後フランス文学における記憶の断片のモチーフをめぐって ——パトリック・モディアノの小説作品を中心に——

日本大学（非常勤） 坂東 真理子

プルースト以降のフランス文学において、記憶はまぎれもなく重要な主題の一つであった。多くの作家が独自の記憶の様態を作品の中で再現し、相互に影響を与え合うことで、記憶の概念そのものを時代と共に変化させ続けている。本発表では、戦後フランス文学で描かれる記憶の断片のモチーフについて、パトリック・モディアノ（Patrick Modiano, 1945-）の小説を中心に論じる。

断片化された記憶の概念が戦後フランス文学に登場した背景には、第2次世界大戦と、戦後登場したヌーヴォー・ロマンとがある。戦時中、迫害を受けたユダヤ人の子孫であるモディアノやジョルジュ・ペレック（Georges Perec, 1936-1982）にとって、占領時代のフランスはアイデンティティの危機を引き起こし、戦後の社会の変化の中で、記憶を細分化されたものとして受けとめていく契機となった。とりわけモディアノは、自身の生い立ちやユダヤ人でありながらドイツとの闇取引に関わり続けた父親の像に起因する、自身のアイデンティティの葛藤から発して、断片化した記憶の再現という試みに一貫して取り組み、ペレックなどとともに、ヌーヴォー・ロマンの枠組みを超えて、記憶を描く手法を追求していった。

本発表では、ゴダール（Jean-Luc Godard, 1930-2022）などヌーヴェル・ヴァーグ（映画）における断片的な〈語り〉の技法との対比も試みながら、モディアノ自身の作の映画化も視野に入れつつ、モディアノ文学における断片的な記憶表現の独自性を明らかにしていきたい。

東京支部短信

当面の例会運営に関するお知らせ

- ①[例会のハイブリッド開催について] 2021 年度以来、例会は全面オンラインでの開催を続けてきましたが、1 月の例会より、オンライン開催を基本としながらも、**参加者の来場が可能な会場を設けます**。1 月・3 月の会場は早稲田大学戸山キャンパス（文学学術院）を予定していますが、感染予防対策（人数制限）の必要上、当面は**申込制**とします。来場申込については、例会の2週間前頃に支部会員向けの一斉メールで詳細をお知らせいたします。なお、幹事会・役員連絡会については会場・オンラインのハイブリッド開催を予定しています。
- ②これまでどおり、基本はオンラインでの開催となりますので、例会開催日の 1 週間前に、支部会員向け一斉メールで、開催内容（ホームページ掲載と同様）とともに、当日 Zoom に入室するための URL を送付します。その際、ホームページにも、会員に入室用 URL を送付した旨を掲載しますので、メール不着の場合は事務局にご連絡ください。
- ③発表者の資料については、Zoom 上では画面共有で見えることを基本とします。発表を希望される方は、パワーポイントやワードなどで、Zoom 用の資料を作成することをご確認ください。
- ④Zoom への入室は、メールで送付された入室用 URL をクリックすれば可能です。当日の参加に際しては、発表中はカメラ・音声をオフにさせていただきます。
- ⑤例会開催の概要は、年 4 回に分けてホームページに情報を掲載する予定です。3 月に 4 月、5 月分の、6 月に 7 月、9 月分、10 月に 11 月、12 月分、さらに 12 月には翌年 1 月、3 月分の例会情報（日時、発表者名および題目・要旨）を掲載します。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局（hikakubungakutokyo@gmail.com）に氏名、所属、題目、連絡先（メールアドレス、電話）を明記したうえで、600～800 字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は 45 分（質疑応答を除く）です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員みなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト (<https://www.hikakutokyo.com/mm>) のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニューズレター 137号

発行人：佐藤 宗子

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：鈴木 美穂 堀江 秀史 安元 隆子 庄子 ひとみ

事務局

事務局長：源 貴志 会計担当：南平 かおり

事務局委員：川野 礼音 小泉 泉 土田 久美子

芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒162-8644

東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学 文学学術院

源 貴志研究室

TEL：03-5286-3725